

教育の情報化の向こう

研究開発部
宮垣 元

＜高い若者のインターネット利用率＞

もはや私たちの生活に欠くことのできない存在となったインターネットだが、総務省の「通信利用動向調査」によると、インターネットの利用率がもっとも高いのが13～19歳（72.8%）であり、次いで20～29歳（68.5%）、30歳～39歳（68.4%）と、若者の利用率が高くなっていることがわかる（図表1）。

また、文部科学省の「学校における情報教育の実態等に関する調査」によれば、利用形態は多様であるものの、公立高校の2001年3月末現在のインターネット接続率は90.6%（前年度は80.1%）と急速に普及しており、今後はこうした環境が当たり前となった世代が大学へ入学するという時代になるだろう（図表2）。

＜大学教育でのインターネットの活用＞

こうした利用率や普及率の高さを背景に、教育にインターネットを利用する動きも急速に広まっている。かつては「教育の情報化」と言えば、文書の電子化やマルチメディア化を指していたが、今日ではネットワーク化のことを指し、学校教育におけるインターネットの活用の例としては、ホームページによる教材の提供や電子メールを利用した教師と学生のコミュニケーション、そして学生間のグループワークでの利用などがある。

特に、コミュニケーション・メディアとしての活用は、双方向的な教育を可能にする。例えば、

教育現場へのインターネットの活用について積極的な取り組みが行われている慶應大学湘南藤沢キャンパス（SFC）では、全体の86.2%の学生がグループワークにおいてインターネットを活用し（図表3）、電子メールを利用して教員へ質問や感想を送った学生も1995年の56.4%から66.6%（2000年）へと増加傾向にあるという。環境が整っていれば、学校教育の場に活発なコミュニケーションを生み出すことができるという一例であろう。

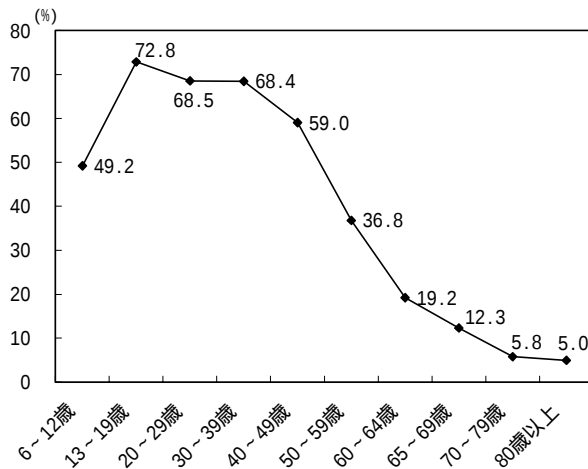
＜新しい取り組み、新しい問題＞

もっとも、インターネット活用のあり方は、上記のように大学で行われている講義を補完するものから、講義そのものがインターネット上で行われるものへと変わりつつある。そして、こうした「学校から抜け出ていく教育」の普及は、講義の著作権や学校の存在意義の問題、さらには「誰のため・何のための教育か」という問題を改めて提起することになるだろう。

既にオンライン講義が一般化しているアメリカの大学では、学校経営という観点からオンライン教育ビジネスを新たな市場として位置づけているが、こうした動きに対し、昨春マサチューセッツ工科大学（MIT）が、同校のすべての教育コンテンツを世界中に無料で公開するという「オープン・コースウェア・プロジェクト」などを提唱し注目を集めた（図表4）。

インターネットを学校経営の手段とするのか、豊かな教育の場とするのか。教育の情報化が進む先には、教育の位置づけをめぐるより根源的な問いが待ち受けている。

図表1 年齢階層別インターネット利用率



注1：対象は全国の20歳以上の世帯主がいる3,845世帯で、上記データの総数はその世帯に含まれる1万2,114人

注2：利用率は、過去1年間にインターネットを利用したことがある人の割合（調査時期は2001年11月1日現在）

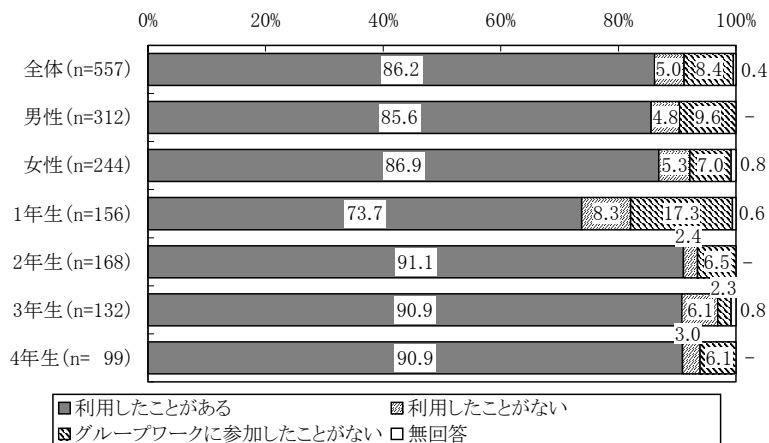
資料：総務省「平成13年度通信利用動向調査（世帯調査）」（2002年5月）

図表2 インターネット接続校の割合

公立学校の種類	学校数 (2000年度)	インターネット接続校の割合(%)		
		1998年度	1999年度	2000年度
小学校	23,506	27.4	48.7	75.8
中学校	10,407	42.8	67.8	89.3
高等学校	4,151	63.7	80.1	90.6
特殊教育諸学校	930	36.3	59.9	81.3

資料：文部科学省「学校における情報教育の実態に関する調査」各年度版より作成

図表3 グループワークでのインターネット利用経験



注：対象は慶應義塾大学 SFC 学部在籍者 557 人

資料：慶應義塾大学 SFC-CNS 利用実態調査委員会「SFC-CNS 利用実態調査報告書」（2000年12月）

図表4 MITによる教育のオープン化の試み

オープン・コースウェア・プロジェクト (OCW)	同大学・大学院の2000以上の講義で用いられている教材をインターネット上で無料で公開する。（教育コンテンツのオープン化）
オープン・ナレッジ・イニシアティブ (OKI)	オンライン教育を行うシステム（教育ソフトウェア）の開発とそのパブリック・ドメイン化（教育プラットフォームのオープン化）

資料：MIT ホームページ (www.mit.edu) 及び『月刊アスキー5月号』p.316-317を参照し作成

LDI WATCH